

インフルエンザ予防接種について

妊娠中にインフルエンザ予防接種
をしてもだいじょうぶ？



インフルエンザは気温が低く、乾燥した時期に流行しやすいと言われています。11月～3月によく見られ、1～2月に流行のピークとなります。

インフルエンザは突然発症し、38℃以上の発熱、のどの痛みや咳・鼻水などの風邪症状を伴います。潜伏期間は1～5日程度です。

妊娠中のワクチン接種について、産婦人科診療ガイドライン2017では、
『妊婦へのインフルエンザワクチン接種はインフルエンザの重症化予防に最も有効であり、
母体および胎児への危険性は**妊娠全期間**を通じてきわめて低い』とされています。

そのため、**妊娠中も希望があればいつでも接種することができます**

インフルエンザワクチンは感染力のない菌を使った不活化ワクチンなので、接種したために感染することはありません。

予防接種することで感染の予防、又は万が一感染してしまった場合は症状を抑えることにつながります。

また、出産後の授乳中に接種することも可能です。

授乳中にインフルエンザに感染した場合、お母さんと赤ちゃんとは密接状態である事が多いのでうつしてしまう可能性もあります。

妊娠中の接種をご希望の方は、外来受診時ご相談ください

ワクチンの在庫状況によって、予約や接種の状況が変わりますので予めご了承ください